

「コメディリック第4回」この振る舞いを見ろ

「心の句」

登場人物

相良 テオ・ポー

白石 シロスコフ

千堂 ペイリー・チャイルド

速水 野彦

職員室・夕方

※相良、千堂、白石、板付き。

【L・明転】

千堂のタバコを持つ相良。千堂はガムを噛みながら相良の説教を聞いている

相良 「千堂。お前、こんなんじゃないつか後悔する日が来るぞ」

千堂 「あんたに言われる筋合いはない」

相良 「はー：停学に入る前に進路調査のアンケートだけ出しとけよ」

千堂 「だる」

相良 「自分のことだろ！ちゃんと考えろ！」

※速水、登場

速水 「失礼します！」

相良 「速水、どうした？」

速水 「放課後に校庭を掃除しておりましたところ！500円玉を拾いまして！」

相良 「おー、わざわざありがとうございます」

速水 「滅相もございません！」

相良 「そうだ！速水、お前も進路調査のアンケート」

速水 「た、た、大変失礼しました！」

相良 「じゃあ、後で頼むな」

速水 「はい！失礼致します！」

※速水、はける

相良 「お前も少しはあの振る舞いを見習え」

※千堂、はける

相良 「どうしたもんかね」

※白石、登場

白石 「相良先生」

相良 「白石先生」

白石 「先生のクラスの生徒の事で少しご相談がありました…」

相良 「何か問題がありましたか？」

白石 「今、現代文の授業で俳句の創作を行っているんですけど」

相良 「はいはい」

白石 「生徒一人一人に今思う等身大の心の俳句を作ってもらったんですが、千堂君の作品をちよつと見てほしくて…」
相良 「まーたあいつか…はい」

【し・暗転】

モニター 「夜に描く 消して沈まぬ 夢の陽」

白石 「夜に描く 消して沈まぬ 夢の陽」
相良 「…え？」
白石 「まだあります」

モニター 「希望船 帆を掲げれば 恩の風」

白石 「希望船 帆を掲げれば 恩の風」
相良 「これも？」
白石 「もうひとつ」

モニター 「こいを知り 筆取り学ぶ 恋の文字」

白石 「こいを知り 筆取り学ぶ 恋の文字」

【し・明転】

相良 「今の、本当に千堂のですか？」

白石 「そうなんです」

相良 「あの千堂？」

白石 「はい」

相良 「さっきの千堂？」

白石 「さっきの千堂君です」

相良 「あいつこんな心があるのかよ！」

白石 「そうなんですよ！3つ目なんかね、恋をして相手に恋文を書く時に恋という漢字を学ぶっていう…もうとにかく素敵な句で」

相良 「…意外。あいつにこんな一面が…」

白石 「もう一人、速水君の作品も見て欲しいんですけど」

相良 「速水！あいつも負けず劣らず素晴らしいでしょ」

【し・暗転】

モニター 「死を求む 汚れた大人に 制裁を」

白石 「死を求む 汚れた大人に 制裁を」
相良 「え？」

モニター 「血祭りだ 悲鳴の囃子 殺し舞」

白石 「血祭りだ 悲鳴の囃子 殺し舞」
相良 「殺し舞で…」

言葉を失う相良

モニター 「八つ裂きだ 裁きの刃 首落とし」

白石 「八つ裂きだ 裁きの刃 首落とし」
相良 「…本当に速水が？」

モニター 「破壊しよう 神を捕えて 邪悪なる
この世の浄化のための犠牲として火を放ち、神
に死を与え真の世界の始まりの宴の聖火と掲
げる」

白石 「破壊する 神を捕えて 邪悪なるこの
世の浄化のための犠牲として火を放ち、
神に死を与え真の世界の始まりの宴の聖
火と掲げる」

【し・明転】

相良 「…やばいな…」
白石 「字余りもひどくて」
相良 「字余りとかどうでもいいでしょ」

白石 「普段はあんなに優等生なんですけどか
なりおぞましい思想を持つてるみたい
で」

※速水、登場

速水 「失礼します！」
相良 「うわ！」
速水 「先生、アンケートをお持ちしました」
相良 「お、おお」
速水 「では失礼します！」

※速水、はける

相良 「とても狂気に満ちているとは…」
白石 「千堂君も速水君もギャップがすごいで
すね…」
相良 「千堂の句には感動しましたよ」
相良 「でも二人とも季語が無いので俳句にな
っていないんです。なので、再提出して
もらおうと思ってるんですけど」
白石 「だったら、職員室に呼びだしてこの場
で書かせましょう」
相良 「え」

相良

「この目で確かめなきや信じられない。
アナウンスで二人を呼んでもらうていい
ですか？」

白石

「わかりました」
※白石、はける

〔SE・チャイムーナレ〕

※速水、登場

アナウンスの「速…」くらいで登場する

速水

「お呼びですか？」

相良

「は、早いな」

※白石、登場

白石

「うわ！」

速水

「白石先生までどうしたんですか？」

※千堂、登場

千堂

「なに？」

千堂の反抗的な態度を見てにやにやする相良

相良

「お前は〜おい！千堂〜！」

千堂

「んだよ。気色悪いいな」

白石

「この前の俳句、季語が入ってなかった
から、もう一度書いてくれるかな？」

速水

「失礼しました！今すぐ、作ります」

千堂

「めんどくさ」

白石、用紙を渡す

速水

「うーん…」

千堂、黙って白石に用紙を差し出す

白石

「千堂君、できた？」

千堂、頷く

相良

「どれどれ」

〔L・暗転〕

モニター「金木犀 甘く匂うは 恋のせい」

白石

「金木犀 甘く匂うは 恋のせい」

相良

「いい！」

白石

「素敵〜！」

相良 「お前、こんなの作れるんだな！」

千堂 「うつせー！ボケ！」

相良 「お前は可愛いなあ〜！」

千堂をわしゃわしゃ。

千堂 「さわんな！」

速水 「できました！」

一同、固まる

唾を飲み匂を覗き込む相良、白石

モニター「栗を持ち 奴らの目玉 串刺しだ」

白石 「栗を持ち 奴らの目玉 串刺しだ」

【L・明転】

速水 「どうしました!？」

相良 「えつとね…速水、大丈夫か？」

速水 「?…僕は大丈夫ですが…」

千堂 「…大丈夫じゃねーだろ…」

相良 「うん。今度、改めてゆっくり時間作る

からもういいよ」

速水 「はい！失礼します！」

※速水、はける

千堂、黙ってアンケートを差し出す

相良 「お、アンケート書いたのか」

千堂 「あんたが書けて言ったんだろ」

※千堂、はける

相良 「シャイな奴だな」

白石 「何て書いてあるんですか？」

相良 「えーつと…将来の夢…大切な人を大切に
できる人間」

白石 「深いこと言うな」

相良 「あいつはコピーライターになった方が
いいですね」

白石 「速水君は…？」

相良 「…相良先生のような素晴らしい教師に
なりたいです！」

白石 「…これは」

相良 「そうですね。こいつは間違いなく純粹
な「悪」ですね」

【L・暗転】

—了—